

- 1 単元名 なかよしをみつけよう「たぬきの糸車」
- 2 目標 ○場面を想像したり、声に出したりして、お話を楽しむ。
○友だちにも読んでもらいたいお話を決め、書いたり読んだりする。
- 3 指導計画（全11時間）
 - 第1次 たぬきの糸車を読み、あらすじを捉え好きな場面を見つける。（2時間）
 - 第2次 場面ごとに詳しく読み取る。（4時間）
 - 第3次 好きな場面の紙芝居を作り、楽しむ。（2時間）
 - 第4次 友だちに紹介カードを書く。（3時間）
 - 第1時 「お手紙」の中からなかよしを見つけて、読みの構えを作る。（本時）
 - 第2時 様々の本の中から、なかよしを見つける。
 - 第3時 紹介カードを書く。

4 指導上の立場

○教材について

本教材「たぬきの糸車」は、たぬきとおかみさんの心温まる交流が描かれている。たぬきのかわいらしさやいたずら心に児童は同化し、作品の世界にたっぷりと浸ることができる考える。また、本文にはたぬきのせりふは一つもなく、その分、自由に想像することを楽しむことができ、児童はときにはたぬきになり、ときにはおかみさんになりながら、このお話の世界に浸りながら楽しんで読み進めていくことができると考える。

○児童の実態

削除しています。

○研究主題との関わり

研究主題「言葉の力を育てる授業のあり方」に迫るために、ねらいを明らかにして児童が読み進めることができるようにする。「たぬきの糸車」を通して登場人物の温かい心の交流を読み取り、他の本でも心の交流を「なかよし」というキーワードで読み取ろうというねらいで第4次を進めていく。第4次のねらいをはっきりさせるために、本時では「たぬきの糸車」と同じように、既習の「お手紙」から登場人物の心の交流を読み取る。このような考えで指導計画を立てることは本校では初めての取り組みである。本時は「習得と活用」をつなぐ「と」の時間であり「活用」の時間の読みの構えを作る。このような時間を通して、活用の時間は児童が主体的に学び、考え、課題解決していく活動になり、「言葉の力を育てる授業」になると考える。

5 本時案

<p>目 標</p>	<p>おかみさんとたぬきの心の通い合い（なかよし）を振り返り、既習の「お手紙」の中からも登場人物のなかよしを見つけることを通して、他の本からも登場人物同士のなかよしを見つけようとする事ができる。</p>
<p>学 習 活 動</p>	<p>教師の支援と工夫（☆評価）</p>
<p>1 本時のめあてを持つ。</p>	<p>○ たぬきとおかみさんの交流を振り返り、本時のめあてにつなげる。</p>
<p>めあて なかよしを見つけよう。</p>	
<p>2 「お手紙」を読んで、がまくんとかえるくんのなかよしを見つけ、教科書に線を引く。</p>	<p>○ ワークシートを渡し、めあてを書かせる。 ○ がまくんとかえるくんの「なかよし」がみつかるところに線を引く。 ○ だれが何をしたか、どんなことを言ったかに注目して考えるように助言する。</p>
<p>3 線を引いたところを発表する。</p>	<p>○ 理由をつけて発表するように促す。 ○ 文章を黒板に掲示し、線を引いて確認しやすいようにする。児童が特に大切だと思う言葉を発表した場合は、線で囲んで示す。 ○ 登場人物がしたことの中に、なかよしを見つけることができたことを確認する。 ○ 他の本からもなかよしが見つかるかと問いかけ、児童の意識をつなげていく。</p>
<p>4 本の紹介を聞く</p>	<p>○ 司書の先生に紹介していただく。 ○ 1冊はお話の途中まで読んで紹介する。</p>
<p>5 読んでみたい本を読む。</p>	<p>○ 「なかよし」を見つけたら印を付けるカードを渡し、意欲的に読めるようにする。 ○ 準備をした本を全て読む時間はないので、次時にも読めることを伝え、「なかよし」が見つかりそうだという期待や意欲を大切にして、本時を締めくくる。 ☆自分で本を読んで、なかよしを見つけようとしている。</p>